

■児童・生徒の学力の状況

○どの学年も落ち着いて授業に参加し、意欲的に個々の学習に取り組んでいる。
 ○学力としては国語はほぼ全国平均と並んでいる。数学に関しては、全国平均と4ポイント、東京都平均と9ポイント低い結果となった。特に関数を用いた問題およびデータの活用の問題において正答率が低い傾向が見られた。
 ○タブレットPCの学習活動も多様になり、授業におけるアプリケーションやツール等の活用スキルが充実しつつある。すららドリル等を活用して自主的に問題に取り組む生徒が増えている。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題

○生徒の主体的な授業規律の確立を常に意識し、落ち着いた授業展開を継続すること。
 ○学年相応の基礎的・基本的内容の定着を図るために、きめ細かな個別支援の継続すること。
 ○思考力・判断力・表現力の向上を目指すための探究的な授業展開を工夫すること。
 ○授業スタンダード・授業スタンダードSに基づき主体的、対話的で深い学びを実現する授業展開を工夫すること。
 ○基本的な知識や技能を入学後早い時期に習得させること。

■学校経営方針より（学力向上に関わる内容から）

○育成すべき資質・能力を明確に捉え、「学びに向かう力・人間性等の涵養」及び「板橋区授業スタンダード」「板橋区授業スタンダードS」の視点から生徒の意欲醸成を実感する授業を実践する。
 ○学びの成果を実感させ、学習意欲向上を図るために、生徒が学習の見通しを立て、自らの言葉で学習の内容と学習を通しての気づき等について自らの言葉で振り返る活動の充実を図る。
 ○生徒が文字言語での「自己評価（振り返り）」ができるような「めあて」の設定と、自己評価しやすい指導方法やキーワードとなる言葉かけを工夫・改善・検証・実践し、基礎的・基本的事項の確実な定着と、主体的に学ぶ意欲を育成する。
 ○一人一台端末等の活用による情報活用能力・プレゼン能力を高め、社会に対応できる人間を育成する。

■確かな学力の育成に向けての具体的な方策

視点1 板橋区授業スタンダードの徹底、及び 板橋区授業スタンダードSの取組	視点2 ICT環境の適切な維持と活用 個別最適な学び・協働的な学びの実現	視点3 総合的な学習の時間との連携
○各教科等の授業において、「学習課題・めあての設定→自力解決→集団解決→まとめ・振り返り」等の学習の流れを定着させる。 ○各教科等の授業において、自己調整型学習的な手法の導入および実践をすすめる。	○生徒の一人一台端末活用について、教科の特性を踏まえながら活用方法を検討する。このとき「使用すること」を前提とした協議を行い、強化・生徒の特性に応じた授業・校務のDX化を見据えた改善ができるような建設的な校内研修等を実施する。	○各教科等の学びを総合的な学習の時間につなげられるようにする。特に「板橋を語れる子ども」の育成を見据えた、校外学習と関連させた郷土愛学習を実施する。

■MIRAI SCHOOL いたばし-教育ビジョン2035- -アクションプラン2028-の実現に向けた具体的な取組

保幼小接続・小中一貫教育の推進	豊かな心と健やかな体の育成	多様な教育的ニーズへの対応
学びのエリアの小学校4校で実施している小中連携（ラボ活動）を基礎として、中学校における各学年の校外学習にて郷土愛の育成を実施する。 「板橋区授業スタンダードS」の実践を学びのエリアでの共通テーマ都市、小学校での実践の成果を中学校の各教科の特色に併せてより進める。	道徳教育・主体的学びの推進道徳授業地区公開講座の実施により、地域や保護者と連携して道徳教育を推進する。 「いたばし学級活動の日」を設定し、多様な他者との対話を通じて合意形成を図ったり課題を解決したりする力を育成する。 いじめの未然防止・早期発見・組織的対応 年間2回のWEBQU（学級満足度・人間関係の診断テスト）を定期的に実施する。	校内における、集団授業に参加しにくい児童・生徒が安心して自分らしく過ごし、学習できる別室・居場所支援（リソースルーム）の推進する。 スクールカウンセラー（SC）やスクールソーシャルワーカー（SSW）の派遣・配置による、本人および保護者への専門的な相談支援を強化する。